

# てんぷら油火災に注意!

市内では、火の取り扱いの不注意による火災や天ぷら油鍋のかけ忘れによる火災が増えています。天ぷらを上げているときに限って、電話や来客があり「ちょっと」と思って火をつけたままその場を離れた時に火災が起きています。

日頃から台所に消火器などを用意し、いざという時にすぐ使えることが大切です。コンロを使用中には、その場を絶対に離れない。



『火をつけた あなたの責任 最後まで』平成12年防火標語

『たしかめて 火を消してから 次のこと』平成13年防火標語

『あなたです 火のあるくらしの 見はり役』平成17年防火標語

『火は見てる あなたが離れる その時を』平成19年防火標語

## 天ぷら油火災を防ぐには

1. 天ぷらや揚げ物をするときは、その場を離れない。どうしても離れなければいけない時は必ず火を止める。
2. 台所に消火器や住宅用自動消火装置を設置する。
3. ガスコンロは、立ち消え安全装置、加熱防止装置などの付いた安全調理器具を選ぶのも一つの方法だと思います。



### こんな原因でも火災に?

- 紙製の油吸着剤で天ぷら油の処理をしてごみ袋に捨てたところ、ごみ袋が燃える火災が発生した。
- 揚げ玉を天ぷら油で大量に揚げ、積み重なったまま放置したところ火災が発生した。
- コンロの近くに布巾をかけていたら布巾が落ちて火災が発生した。



## もし、火災になってしまったら

水、水分の多い野菜を入れると、急激に炎が大きくなり、周囲に油が飛び散って大変危険です。また、炎に包まれた天ぷら鍋を屋外へ搬出したり、窓等から屋外へ投げ捨てる例も見られますが、火傷を負うなどの危険がありますので注意が必要です。

### 覆いをして窒息消火する方法

濡れたバスタオル、シーツ等をかき絞ってから鍋全体を覆う(隙間がないように。)しかし、あわてると鍋をひっくり返す可能性があるので注意する必要があります。



## 粉末消火器で消火する方法

消火した後、消火剤の放射を止めると再着火する恐れがあるので、充填されている全量の消火剤を油の中に入れる。この際、消火剤で視界をさえぎられ、火元を見失う恐れがあるので注意する必要があります。

**注意【消火器を使うときには直接鍋にノズルを向けない】**

- 消火器の噴射の勢いで自分に熱い油がかかってしまいます。鍋には直接消火器を向けないで下さい。
- 一度壁に当たってから消火薬剤を鍋に落とします。壁をクッションにすることで噴射の勢いを弱め、油の跳ね返りを防ぎます。



## 強化液消火器で消火する方法

噴霧ノズル付強化液消火器は、粉末消火器と比較すると冷却効果があり油火災にもとても有効です。しかし、噴霧ノズル付以外の水系消火器は、油が飛び散り火災を拡大させる恐れがあり適しません。

## エアゾール式簡易消火用具(小規模火災のみ有効)

エアゾール式簡易消火用具鑑定マーク(日本消防検定協会が実施する鑑定を受けたことを示すもの)があるものをお勧めします。

**天井に火が燃え移っていたら  
直ぐに逃げましょう！**

## 消火後にガスの元栓を閉める

消火後にガスの元栓を閉めることを忘れずに行ってください。



### 【悪い例】

**生野菜を入れる。 マヨネーズを入れる。**

投げ入れた勢いで、油が飛び散り、火災が拡大したり、火傷をする恐れがあります。

**水をかける。** → 加熱された油で一気に沸騰し、油が飛び散ったり、火柱をあげて燃え出します。

### ※油処理製品使用時の注意点！

各製品には、油の温度は何度以下で使用してください、または、冷たい温度専用等の注意書きがあります。必ず使用方法・使用上の注意を読んでから使用するようにしてください。これは、高温で使用した際には油は酸化しやすく、それをゴミ箱やゴミ袋に捨てた際に発生した酸化熱から自然発火することがあるためです。



**住宅用火災警報器を設置しましょう！**

